

【特徴】

当センター小児代謝・内分泌内科は小児内分泌・代謝疾患を中心にして診療している。下垂体、副腎、甲状腺、性腺、骨・カルシウム代謝、水・電解質異常、肥満、糖尿病、高脂血症、先天代謝異常症一般を幅広く診療している。

【研修目標】

1. 一般目標

症状から、適切に検査計画をたてて、多くは稀な疾患である小児内分泌代謝疾患の正しい診断にいたることができるようになること。疾患に応じたスタンダードな治療を理解し行えるようになること。

2. 行動目標

- (1) 子ども、その家族へのアプローチの仕方について学ぶ。
- (2) 内分泌障害から起こる種々の症状について、ホルモン分泌カスケードを踏まえたうえで理解する。
- (3) 具体的には、成長障害、性成熟異常、肥満、るいそう、外性器異常、電解質異常など多岐にわたる症状の病態生理を理解する。
- (4) 内分泌疾患に特に重要な問診、理学所見の取り方、検査計画の立て方、成長曲線の評価、骨年齢の見方などを習得する。
- (5) 内分泌臓器の画像診断、とくに下垂体の評価を知る。
- (6) 主な先天代謝異常症の症状、自然経過、診断方法を知る。
- (7) 緊急な対応を要する水、電解質、体液異常について理解し、救急の場で正しく対応できる。

【方略】

- (1) 子どもや家族とのコミュニケーションの取り方について、ベッドサイドで指導医とともに学ぶ。
- (2) 症状とホルモン異常の対応について、上級医の指導のもと検索する。
- (3) 検索対象となったホルモンの異常について、実際に画像診断まで含めて検査計画を立て、負荷試験も自分でおこなう。
- (4) 負荷試験の結果について解析する。
- (5) 肥満、糖尿病、高脂血症、高血圧など小児メタボリックシンドローム関連疾患の正しい診断と治療を指導医のもとで学ぶ。
- (6) 血液ガス、アンモニア、アミノ酸分析、タンデムマス分析の結果の読み方を学ぶ。
- (7) 頭部MR I、腹部CT、腹部MR Iなどの検査結果を自分で評価できる。
- (8) 小児内分泌疾患に関連する甲状腺、副腎、女性内性器などの腹部所見を超音波検査を行って評価できる

【評価】

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導者から評価を受ける。

【見学等問い合わせ先】

小児代謝・内分泌内科部長 依藤 亨